

スポーツ支援の拠点施設

「長沼ボート場クラブハウス」がオープン



1 オープニングセレモニーでは、関係者がテープカットし、完成を祝いました。2 完成した長沼ボート場クラブハウス外観。3 式典に先立ち、佐沼中学校体育館で桐生選手との交流事業を開催。市内の陸上競技に打ち込む小中学生約150人が指導を受けました。4 君原氏による記念講演。5 8月のジャカルタ・アジア大会男子400リレーの金メダルを掲げる桐生選手



昨年9月から建設を進めていた長沼ボート場クラブハウスが完成しました。今号では、完成したクラブハウスを紹介します。

追町北方の長沼ボート場の隣接地に昨年9月から建設を進めていた長沼ボート場クラブハウスが完成し、9月8日から利用を開始しました。

長沼ボート場クラブハウスは、老朽化した長沼フットピア公園ふるさと交流館を解体し、その跡地に建設。東京五輪ボート競技参加国の事前キャンプや全国規模のボート競技大会誘致に向けた受入態勢の強化、練習会、強化合宿などのほか、各種スポーツや団体活動、イベント開催を支援する宿泊施設を備えた拠点施設として、事業費約6億円をかけて整備を進めてきました。

クラブハウスは木造2階建てで、延べ床面積約900平方メートル。食堂、シャワー室、多目

的室を備え、寝室は12畳の和室5室と12畳の洋室6室があり、最大で77人が宿泊できます。多目的室はトレーニングルームも兼ね、ボート用トレーニング機器も完備しています。

9月8日にはオープニングセレモニーを開催し、市民や関係者ら約150人が出席しました。熊谷盛廣市長は「クラブハウスは、各種スポーツ活動や地域の交流拠点施設として整備してきた。市民の憩いの場として未永く愛され、地域内外の交流の場として活用していきたい」とあいさつしました。

関係者によるテープカット後には、記念講演会を開催。講師に1964年の東京五輪から3大会連続で男子マラソンに出場し、68年のメキシコ五輪銀メダリストの君原健二氏と、陸上男子1000メートルの日本記録保持者で8月のジャカルタ・アジア大会男子400リレーで金メダルを獲得した桐生祥秀選手（日本生命）を迎え講演。君原氏はマラソンの歴史と自らの人生を振り返り「64年の東京五輪は、私に素晴らしい人生を与えてくれた。このクラブハウスも多くの人が交流し、きっと良い思い出を作ってくれるだろう」と期待を寄せました。桐生選手は「東京五輪に出場でき

た。これまで、カナダボートチームの視察や国際ボート連盟の臨時総会で、施設をPRしてきました。日本トップクラスの施設であることは理解されますが、宿泊場所が課題だと感じていました。クラブハウスが完成し、受入態勢を強化したことで、課題の一つがクリアされました。

2020年、東京五輪が開催される日本に、世界中のトップアスリートが注目しています。市は、今回完成した長沼ボート場クラブハウスを積極的にアピールし、東京五輪ボート競技参加国の事前キャンプや全国規模のボート競技大会の誘致に向けて取り組んでいきます。

東京五輪ボート競技事前キャンプ誘致に向けて

2015年から、東京五輪ボート競技事前キャンプ誘致に向けて活動をしています。長沼ボート場は国内で唯一、常設2千、8コースがあり、日本ボート協会公認A級コースとして認定されています。過去にはオリンピックアジア大陸予選会が開かれました。



登米市教育委員会
生涯学習課
日野 幸紀 課長

16年のリオ五輪では、ボート競技参加国は69カ国。現在、東京五輪の事前キャンプが決まっているのは5カ国です。事前キャンプを検討している国に、積極的に情報を発信し、多くの視察を受け入れ、事前キャンプ誘致につなげていきます。